

日時：2018年8月6日（月）～7日（火）

場所：国民會館（武藤記念ホール）12階大ホール

内容の概略

■第一日目 8月6日（月）高校対象

- ・主催者挨拶と今回の経済教室の講義の趣旨説明のあと、1時間目の講義がはじまった。

<1時間目> 「Basic 基礎から学ぶ上場会社」（鈴木深先生）

- ・内容は東京会場（高校）の記録にあるので、それを参照していただきたい。

<2時間目> 「エコノミストと作った三つの授業—時間・交換・公共の経済学」（埴枝里子先生、加藤一誠先生）

- ・埴先生から資料説明、授業実践資料説明、自己紹介のあと、今回は「時間の経済学」に焦点を合わせて紹介するとして、以下のような実践紹介が行われた。

（1）問題意識など

1) 問題意識

生徒は社会の一員であるという当事者意識が低い（期初のアンケート結果から）
経済概念を習得することで現代の諸課題をより多面的多角的に考察できると考えている

2) 目的

社会の問題を自分ごと化すること 冷静に社会現象を読み解くこと
これにより、生徒の可能性を伸ばしていきたい

3) 方法

理論モデルを理解し、授業デザインをすることで、理論と現象の「ズレ」を埋める
理論モデルの理解 ファーストステップは『マンキュー入門経済学』
エコノミストの共通言語としての「公正」の理解がプロと実践家では理解が異なるため
中学教科書にも誤った記述がある
しかし、あくまでも経済学は理論モデルであり、現実社会を説明できないという事実を
理解することが大切

（2）「時間の経済学」の授業

1) 時間割引率とは

この実践は主観的な時間割引率を扱っている
池田新介教授の「せっかちさ」（忍耐力のなさ）からヒントを得た
今の8万円か 1年後の10万円か 金利が高い＝時間割引率が大きい
「アリ」と「ギリギリス」の寓話に落とし込む 生徒があまり知らなかった
※実践は授業プリントを含む資料をもとに紹介

2) 時間の経済学を振り返って

成果と課題 時間と金利には関係があると生徒が理解

お金と時間に関する意識づけ

課題 金融経済教育と関連づけ、主観的な時間割引率から市場割引率へと発展させる必要あり

(3) この授業からの新たな提案3つ

①資産運用と金利を関連づける

例 タンス預金 定期預金 投資信託A 投資信託B

エクセルを利用して計算が簡単にできる

「今日の金は明日の金よりも価値がある」

②国民所得倍増計画を学ぶ 例 池田内閣 72の法則

③企業の役割と関連づける

例 企業の設備投資を考察する 現在価値の考慮はビジネスを考える際有効

(4) 授業の裏舞台

何を読んだのか 池田新介『自滅する選択』が有効

東京部会で授業案の「ダメだし」を何度も…

相互の授業見学 出張授業で加藤教授にも

読書やメモの方法 メモはスマホ 一方でノートも

アイデアで困ったら 「マインドマップ」で

大切にしていることとは リサーチ

・加藤先生から埴先生の発表をうけて以下のようなコメントがあった。

1) 埴先生の「時間の経済学」の補足

主観的な時間割引率 1年後の10万円をどうみるか 今将来をどうみているかである

2) 本日の私のコメント・テーマ

今日の目的 政府の役割と公共を整理

「公共」という科目には詳しくないが、公共事業を研究対象としてきたのでそれに焦点をあわせてコメントしたい

外部経済と外部不経済

外部性とは (学生の授業評価を例に説明)

技術的外部性 環境改善

金銭的外部性 鉄道の開通による路線価の上昇

3) 具体的事例

淀川環境整備事業 (水辺整備)

淀川ワンド 水辺の魚を復活させる この公共事業の評価はどうするか

住民への平均費用は248円 アンケート回収率30%

- 4) 先の長い公共事業の価値をどうみるか これに時間割引率が関わっている
昨今、公共事業は便益よりも費用が大きくなっており、効率性の観点から、公共事業に着手できない現状がある。そのため、インフラの老朽化が全国各地で問題になっている
- 5) まとめとして「公共」事業は（恣意的ながら）効率性を考えていることを伝えたい
身の回りの事象を経済的な発想で考える姿勢を、教える側はわかっている必要がある
民主党政権 評価を3年後→5年後に戻そう 根拠なき批判
科学的な目で 「民＝効率 公＝非効率」とは限らない

質疑

Q：加藤先生に、そうは言っても公共事業は無駄なものでは？茨城空港は？

A：茨城空港はチェックして造っているので無駄とはいえない。

公共事業の非効率性 事業者にとっては自由にやらせてくれるはずだが、今は面倒
景気がよくなってきているので、全然人気ない。

仕方なくやっている。教科書には載っていない。

公共事業は全部委員会にかかっている。安上がりな手法を選んでいる。

新規事業はなかなか採択されない。

Q：埴先生に質問。

埴先生の授業では数字の設定が具体的である。インパクトのある数字はくいつきがいいが、現実はそうでもない。数字の設定はどうされたか？

A：実際に低金利すぎて生徒たちの感覚がない。したがって、計算しやすい、インパクトがある意味で25%と設定した。しかし、これは現実感のない数字。実際の授業では、計算させないが現実感をもたせるよう低金利の紹介をするにする。単純化して落とし込むことに力点をおいている。

Q：加藤先生に質問。

水道事業の民営化に関して、フランスが民営化したら値上がり、パリは再公共化したという。水道は生徒にとったら身近、どう授業するか？

A：水道料金のからくり 薬品が入っていないところほど安い。

民間でやるよりも公共でやる方が一括でできていい。

設備の老朽化 民間は運営だけと言われていたが、値上がり

新しいところは水道料金は変わらない。

シカゴ 道路料金 民営化 契約書に2%上げていいと書いてある。

民営化もいったん止まるときかもしれない。

< 3時間目 > 「次世代の職業選択を経済学から考える」(安藤至大先生)

- ・内容は名古屋会場の記録にあるので、それを参照していただきたい。

< 4 時間目 > 「高校新学習指導要領を読み解く」(大杉昭英先生)

・大杉先生は以下の講義をされた。

(1) ある中学の入試問題より

3つの定期便旅客便の時刻表から、どれが羽田空港と釧路空港、佐賀空港、山口宇部空港かを当てさせる(ペアワーク)

勉強した内容と私たちの社会生活場面をリンクさせるのが新学習指導要領のねらいの一つである。

(2) 新学習指導要領記述内容の規則性

問題状況に対する知識とそれを活用して思考・判断・表現する力を育てるように内容が示されている。

公民科の2つのポイント

「社会的な見方・考え方」を働かせること。

公民科で育成しようとする資質・能力

知識・技能 表現力 判断力 思考力 学びに向かう人間性

(3) 学びの改善をモデル化すると

授業とは (分からない) 問いと (分かる) 答えをつなぐものだと考える獲得する

「問い」と「答え」をつなぐのが学習活動を改善する

「問い」には2種類ある 定まった1つの正しい答えを追求する場合

定まっていない答えを追究する場合

科学哲学上2つの考え方と言えば

科学的实在論が定まった一つの答えがあるという立場、科学構成主義が定まっていない答えを自分たちで創るという立場

(4) 新科目「公共」について

目標 目標に示された、育成すべき資質・能力に着目する

内容 A公共の扉

B自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する

C持続可能な社会づくりの主体

A 公共の扉 行為の結果を重視する帰結主義と 行為の動機を重視する非帰結主義の考え方が根底にある。

例えば、鉄道会社のアナウンスで気分が悪くなった乗客がいるため列車を止めたというとき、帰結主義と非帰結主義では判断が分かれる。

行為＝列車を止める？止めない？

止めない vs 止める

帰結主義 非帰結主義

公共的空間における基本原理を学んで、様々な問題を考えるようになっている。

また、公共の扉では、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動が今回求められている。

経済の内容に関しても帰結主義と非帰結主義の二つの観点から考える事例が新学習指導要領解説に示されている。これを参考にすると次の事例などが授業で使えるのではないか。

事例：宮島航路早朝深夜便廃止か 資源配分の問題 税を何に使うか政策決定

質疑

Q：最後の事例で、納得できる解決策として署名運動をやって船会社に運営してもらおうというのを考えた。現実社会ではすべてが対立から合意ではない。学校では対立と合意で済ませる。合意を目指す過程が大事ではないか。

A：署名運動＝意見表明なので、住民の意見を聞いた代表者が議会で決めていくことを考えることが大切。現実の解決策はさまざまある。署名するにしても、私はこの方が妥当性を感じるんだということをきちんと説明できるようにする。妥当性をどう考えるかが大切。

Q：北海道のJR維持問題（名古屋で発表した北海道の山崎先生の事例）などのように、実際の問題を使った方がいいのか。それともモデルを使った方がいいのか。

A：考える枠組みは思考実験的なもので、人類史上積み上げてきた理論、考え方を使って考えるべきだ。生の問題を取り上げた場合は判断することが難しい。基本の枠組みを考えて、モデル化したもの考える方がいいのではないか。

<まとめ> 篠原先生より

・本日は、あまりまとめる必要がない。思考実験に関しては、リカードで言えば、「比較優位」がそれにあたるだろう。リカードモデルを高校の先生方は好むが、それはあの時期の社会背景から出ている理論。それを分かった上で、高校先生方は学習に適しているかどうかを判断してほしい。

思考実験は、客観的に判断するためのものであってほしい。

■第二日 8月7日（金）中学対象

<1時間目> 「Basic 授業づくりの着眼点」（三枝利多先生、野間克敏先生）

- ・東京中学の記録に同一内容のものがあるので、参照していただきたい。
- ・当日の野間先生のコメントは以下のものであった。

印象に残った点と質問をする。蓄積がある実践である。先生の念頭にあるのは若手にヒントになるようにということである。若い先生は、徐々に実践することで、つながりが出てくるはずである。焦る必要はない、躊躇しながらも実践する姿勢がほしい。それもできればパッケージで実践してほしい。

無人島シミュレーションは、教材自体が成長している。だんだん増えてきている。最新

版では政府も登場している。

活動型の実践に対して、評価はどうかと質問が出る。評価の仕方も三枝先生は、丁寧に答えているので、ぜひレジュメを参考にして実践のヒントにしてほしい。

・コメントを踏まえて野間先生から質問があった。

動かない生徒がいたらどう動かすのか 生徒を動かすコツは？

外部講師は効果的だが、社会との接点をどうとったら良いかも聞きたいところだがすべてレジュメの中に答えと実践へのヒントがある。

そこで、一つだけ以下の質問をしたい。

経済出身でない先生はまず何から始めれば良いか？

A：(三枝先生) まずは家計から始めるとよい。企業と政府のつながりもみえてくる。家計、企業、政府にそれぞれ目的がある。それぞれ主体には優先順位があるので意識してほしい。プロパーから話を聞きつつ実践を始めると良い。

< 2 時間目 > 授業提案 1

「織田信長と豊臣秀吉による租税制度について考えてみよう」(佐藤央隆先生)

・佐藤先生は資料をもとに以下の提案をされた。

1) この実践の意義

・中央教育審議会の答申を経て、新学習指導要領のなかで、求められる資質・能力が明らかにされた。さらに、現行の指導要領に引き続き、歴史に関する事象の指導においては、公民的分野との関連にも配慮するという指示がでている。

・公民的分野を中心に学習されてきた経済に関しても、歴史的分野において構造化、焦点化し、多角的・多面的に考察、構想する活動が求められている。

・今回の織田信長と豊臣秀吉による経済政策は、我が国の近世社会の基礎を形成するものであり、それを対比して考察する学習活動は重要な意味を持つ。この単元のまとめの学習の部分で二人の経済政策(主な政策と租税制度)を時代の流れの視点と、現代からの視点の両面から評価することは、ものごとを多角的・多面的に考察する活動の事例になろう。

2) この実践の全体像

・実践は中学校 2 年歴史的分野の単元「天下統一への歩み」(5 時間完了)のものである。全体構想は以下の通りである。

- 1 天下統一を目指して
- 2 長篠の戦いを資料から読み取ろう
- 3 近世社会への幕開け
- 4 城と茶の湯
- 5 (本時) 租税制度について考えてみよう

・「租税制度について考えてみよう」の指導過程は以下の通りである。

- 1 本時の学習課題の確認
- 2 既習の租税制度について、その変遷を振り返る
(納税主体の視点から、それぞれの内容を確認させる)
- 3 織田信長と豊臣秀吉が行った主な政策と租税制度の比較をする
(納税制度に関しては、納税主体、課税対象、課税主体に分けて確認させる)
- 4 課税主体と納税主体のインセンティブの違いを話し合い発表する
(班単位での話し合いと代表による発表をする)
- 5 公平・中立・簡素といった視点から租税制度の特徴を話し合い、発表する
(班単位の話し合いと代表による発表)
- 6 本時の振り返りをする

3) 生徒とのやりとりなど

・発表に際して、以下のような問いと回答を行った。

①納税主体と課税主体のインセンティブの違いについて

・信長の租税制度が、信長本人または商人にとってよいと言える点は何か。

(生徒：商人は冥加金をだすだけで自由に商売できた。城下町で商売がさかんになるほど信長には税がたくさん集まった。)

・秀吉の租税制度が、秀吉本人または百姓にとってよいと言える点は何か。

(生徒：検地の基準を統一したことで、百姓の年貢徴収に対する不満が減った。石高に応じて年貢を取ったので、秀吉は安定した収入を手にすることができた。)

②租税原則の視点で比較する信長と秀吉の租税制度の違いについて

・信長と秀吉の租税制度で、負担の公平性が優れているのはどちらか。

(もうけの差や収穫高の差があるため、どちらともいえない)

・信長と秀吉の租税制度で、社会への悪い影響が少ないのはどちらか。

(座や関所をなくしたので信長)

・信長と秀吉の租税制度で、制度の簡素性が優れているのはどちらか。

(座や関所をなくすのは簡単なので信長)

4) 授業の結果

・生徒は興味をもって取り組んだが、納税主体のインセンティブの違いから考察・判断・表現する活動については十分に取り組めたとはいえない結果となった。しかし、生徒のなかには、納税主体のインセンティブに気づき、「信長に冥加金や矢銭を徴収されても、商人にはそれを上回る利益があったから受け入れたと思う」、「秀吉に年貢を徴収されても、農民は土地の所有権を与えられたので満足した」という意見を発表する生徒もいた。

・租税原則の視点に関しては、公平の定義を生徒に委ねたこともあり、深い考察や十分な話し合いへと発展させることができなかった。

- ・以上は課題としたい。

篠原先生コメント

最初の提案の時に比べ、かなりストーリーがすっきりしてきた。

政策担当者として、二人がどんな工夫をしてきたのか、なるべくストーリーをシンプルに教えると良い。

中国の学生には、君の母が「分かる」と言うような説明ができるように、エッセンスを理解しろと言っている。

租税原則の3要素は経済学者として肯定できない。例えば、普通「中立」はできない相談。「中立」は英語でニュートラルという。これは資源配分を変えないという意味であるので租税でこれは無理。したがって、学校で「中立」は難しすぎるので要らない。また、「簡素」も当時の状況を今の感覚で判断していけない。

<3時間目>授業提案2

(1)「思考実験から現実へつなげる授業」(升野伸子先生)

- ・内容は名古屋会場の記録にあるので、それを参照していただきたい。

(2)「主体的・対話的で深い学び～日本のお金の使い方を考えよう～」(安野雄一先生)

- ・内容は名古屋会場の記録にあるので、それを参照していただきたい。

<4時間目>「中学教科書を使ったエコノミストからの授業提案ー市場の働きと経済ー」 (佐藤英司先生)

- ・内容は東京中学の会場記録にあるので、それを参照していただきたい。

質疑

Q：ホテルのシーズン料金の違いは、入試問題でも出る問題である。1ページの事例から教えてほしい。

A：旺文社の正解事例は一理ある。価格設定が、失敗する可能性がある。この場合は供給曲線が垂直な事例となる。旅館が少ないからこのような結果となる。ある一時点では垂直だが、旅館が増えれば変わる。

Q：内容に興味を持った。具体的な事例がおもしろい。ただし、経済的な見方・考え方からいって需給曲線は教科書からなくすべきである。経済を嫌いにする事例にもなってしまう。

A：ご意見として承っておく。

まとめ 篠原先生コメント

・現在の学習指導要領を作っている際、需給曲線の図をなくそうと動いたことがあった。でも、教科書では全社掲載されてしまっている。

・教科書に掲載されている価格の事例では、無理矢理にさまざまな事例を一つの需給曲線で当てはめようとしている。グラフの読み方を学ばせるより、どういうときに需要が増え供給が増えるのかを学ばせた方が良い。この問題は、教科書会社と現場とで「囚人のジレンマ」状態である。

以上で、大阪会場の夏の教室は無事に終了した。

記録と整理：杉田、新井

質疑の記録と整理：杉田、中山、新井